

編集後記

近年、CSR（企業の社会的責任；Corporate Social Responsibility）が、市民社会から大きく問われはじめている。昨今の企業不祥事や企業犯罪などの多発、多国籍企業による人権侵害へのNGOなどによる告発とキャンペーン、また地球規模の自然環境問題の深刻化など、企業の意思決定と活動が、グローバルにもローカルにも社会に与える負の影響が明らかになってきている。

このような動向に対して、日本においては経団連（日本経済団体連合会）といった大企業団体などから、企業のみが社会的責任を負うのではなく、広く社会における組織においても社会的責任が適用されるべきであるといった提起がなされ、社会的責任（Social Responsibility=SR）の概念は企業のみではなく、大学や病院、NGO・NPOや行政機関などの組織一般に広がりを見せている。例えばISO（国際標準化機構）は組織一般に対して、国際標準の社会的責任の規格化（ISO26000シリーズ）をすすめている。

このように現在、大学においても社会的責任が問われはじめている中、100年の伝統をもつ別府大学は、国際経営学部を2009年4月に開設し、同時に教育も見据えた研究拠点として、国際経営学会（別府大学）も創設した。本誌「大分銀行小倉義人取締役頭取、別府大学西村明学長対談」は、大学の社会的責任を果たすために設立された経緯と内容が対談という形式で語られている。また、本誌冒頭「会長就任のご挨拶」に明確に述べられているように、社会的責任をもつ国際経営を実現していくために、Global Managementは国際経営学会（別府大学）の中核をなす研究誌として位置づけている。

寄稿論文「日米独経営経済学の特質」では、本学部の特徴である経営学と会計学を一つの枠組として把握する重要性が指摘されている。農業経営、観光経営、グローバル・マーケティングに関する3つの論文および2つの研究ノートは、本学部が果たすべき社会的責任への取り組みを具体的に示している。「別府大学人」では、別府大学国際経営学部を教職員と学生の組織として狭く捉えるのではなく、企業、NGO/NPO、行政、地域住民、保護者、卒業生、他学部など法人全体、市民社会などの関係者を含めて広く捉えており、今後シリーズ化の予定である。このような捉え方により、関係者からのニューズレターや広告も掲載している。また、本学では伝統的に学生の主体的学習の場として「研究会」という文化が根付いており、本学部でも現在6つの研究会が始動している。その中から今回は3研究会の活動を紹介した。

以上のように本誌は、これまでの学部紀要とは趣を異にしている。学術誌であるがゆえに論文・研究ノート等が中心であるが、別府大学人、学部研究会動向、さらに広告も積極的に取り入れている。この編集方針は、学術性を担保するだけではなく、大学の社会的責任と積極的に向き合う姿勢を示している。関係者の皆さまにおかれては、是非このような趣旨に御賛同頂き、ご参加をお待ち申し上げる次第である。企業や地域住民などの関係者や各専門分野の研究者が、共同することによって展開するGlobal Managementが、グローバル化する現代社会と別府・大分の一隅を照らす灯火となり、社会問題解決の鍵を生む力となることを期待してやまない。

（中）